

三軒茶屋星座館

前巻までのあらすじ

○三軒茶屋星座館／店内／夜

誰もいないプラネタリウム

「三軒茶屋星座館」。

しん、と静まりかえっている。

入り口が開くと、大神ゼウスが

ひょっこりと顔だけを店内に入れる。

BGM「サンバ・デ・ジャネイロ」が流れだす。

ゼウスは中腰で、拍手をしながら

店内に入ってくる。

スポットライトが落ちて、

床からスタンダードマイクがせり上がる。

その前でゼウスは満面の笑み。

暑苦しい。

ゼウス「ゾモーー！ というわけで無沙汰しておりますよー、『おやすみからおはようまで、夜の暮らしを見つめる大王』、でお馴染みの大神ゼウスです、今夜も元気です、なんなら今からどうです子作り！？ トップ少子高齢化！ なんてご挨拶させて頂いてるわけですが、みなさんお元気でしたでしようかー、ゼウスですう。

さてさて、三軒茶屋星座館も第二巻となりまして、主人公の大坪和真による夏の星座の解説をこれから四つ、いやお嬢さんとつても美人さんだから今夜は特別に五つ、五つも！ 寝ないでご紹介いたしますよー、寝かせませんよー、ゼウスですう。え

え、僕も出できます！ 元気いっぱい着床させてます！ 全国のゼウスファン待望の第一巻ですよ！

ついでに僕は興味ないんだけれど、和真と彼の仲間のその後も描かれてますよー。あら、もう忘れちゃった？ あの金髪たちのあれやこれ、そうですか、じゃあざつと簡単におさらいしますね、ざざっとねえ

ゼウスがスケッチブックを拾い上げ、そのページをめくる。(紙芝居)

『月子。今日からこいつが、もう一人のお父さんだ』

なんて娘に和真のことを紹介するものだから、月子は和真のことまで『お父さん』と呼びはじめます。こうして父二人、娘一人、の奇妙な共同生活が始まるわけですねえ。そもそも子供が苦手な和真是『早く出ていいってくれ』なんて文句を言いながらも、なんだかんだ創馬と月子を追い出すことはできません。

ゼウス「プラネタリウム兼バー『三軒茶屋星座館』を半年前にオープンさせた大坪和真、三十三歳、金髪、独身。その和真の元に、ある日突然、双子の弟が八歳になる娘を連れてやって来たところから騒動ははじまりました。ええ、二度の飯よりアロテイン好きのマッチョな学者・創馬と、白いワンピースがよく似合う美少女・月子です。十年

あら？ なんで和真が弟の結婚を知らなかつたかって？

いい質問ですねえ、実にいい。

特にその質問の良さに気づいたときの僕の横顔がいい。

実は和真は弟が留学をしてから何年もの間、刑務所に入っていたんですよ、ええ、臭い飯を食ってたわけ。だから創馬の結婚は寝耳に水だったんです。

とは言つても、和真自身が事件を起こしたわけじゃあ、ありません。殺傷事件を起こしたのは、和真の恩人であるオカマの慢ちゃん。

でも彼女がそこまで追い詰められたのは自分のせいだつて思った和真は、その身代わりに罪を被つたんです。義理堅い！ そういうものは堅ければ堅いほどいい！

事件は新宿の再開発がらみの騒動で、当時は救世主に思えた村上っていう事業家に、和真も慢ちゃんも騙されてんですね。ま、そのへんのくだりは第一巻にしつとり書かれてるから参考にね。

一方で、月子。ここ大事よ！ 大事だからメモって写メってアップしてシェアするところね、月子ちゃん、実は創馬の実の娘じゃなかつたわけ！ 子作りしとらんかつたんかい！ てね、本当は奥さんの連れ子だったんです。

創馬とも和真とも血のつながりがないことを知った月子ちゃんは、ショックのあまり姿を消してしまったんだけど、和真や創馬、その他の常連たちの優しさに触れて、また家族と暮らすように相成りました。でも、どうやら創馬と月子には、まだ隠された秘密があるみたい。

そんな和真たちの話を中心にしながら、三軒茶屋星座館には毎回面倒な客たちがやってきますよ。

自分の年齢の倍もある女に恋をする高校生の奏太。

彼氏の浮気を疑うヌーブラ着用のキャバ

嬢、
凪子。
会員制釣り堀を経営している雑居ビルオーナー、ピカ爺。
星座館の一階でオカマバーを経営している筋肉フェチのリリー。
女とギャンブルが人生の悦びの不動産屋、谷田。

奏太をスカウトしようとした六本木の闇金業者、保科。

というわけで、こんな面倒な客たちが持ち込む相談や事件に巻き込まれながら、我らが和真くんは今日もへこたれずに閑古鳥が鳴くプラネタリウムを開いています。

なんのために？

いい質問ですねえ、実にいい。

その質問をした僕の声のトーンが大河内傳次郎に似てて実にいい。

もちろん星座にまつわるギリシャ神話

を、あなたに紹介するのですよ！ 神話史上もつともタフでセクシーで絶倫な色男、この大神ゼウスの栄光を景気よく語るためにですよ娘さん！ レッツ着床！ それでは三軒茶屋星座館第一巻『夏のキグナス』、エンジョイ！

BGM「サンバ・デ・ジャネイロ」の音量が上がる。

頭を下げ中腰になつたゼウス、スケッチブックを片手に拍手をしながら店から出て行く。店内、静まりかえる。スポットライトが消え、暗転。

プラネタリウムのドーム型スクリーンに、タイトルが浮かぶ。